

実践報告 1

「思考・判断・表現」と一体的に行う評価

愛知県立惟信高等学校 教諭 久納 知幸

愛知県立瀬戸北総合高等学校 教諭 伊左治里帆

愛知県立岡崎西高等学校 教諭 橋本 友紀

1 はじめに

本実践を始めるにあたり、三つの点を重要な要素として取り入れた。1点目は「SMARTな目標」である。S（Specific「具体的な」）、M（Measurable「測定可能な」）、A（Achievable「達成可能な」）、R（Realistic「現実的な」）、T（Time-bound「期限がある」）の五つの視点を用いて、各研究員が実践する単元の目標を明確化した。2点目は「目標の達成につながる指導と支援」である。具体的な到達目標を生徒に明示した上で、言語活動を通じて目標を達成できるように生徒の実態に応じた指導を行った。そして、パフォーマンステストを実施する前にリハーサル及び中間発表を行い、それらを授業者が今後の指導に生かすだけでなく、生徒が自身の改善点に気付くきっかけとした。3点目は「適切な評価」である。「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校 外国語）』をはじめ、一般的には文末を「～しようとしている」とすることが多い。しかし、評価の信頼性を確保するために、「～しようとしている」とは具体的に何をしていることを指すのかを明確にした。また、同観点の評価はパフォーマンステストの結果だけでなく生徒が単元の学習過程で行った言語活動に向かう態度なども考慮して総括的に評価した。本実践では「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の評価を一体的に行うことを基本とするが、評価活動の妥当性と信頼性を高めるためにも生徒の活動状況を見届け、学習結果だけでなく学習過程も吟味しながら慎重に評価を行った。

2 実践例1 「話すこと [やり取り]」における「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価について

(1) 教材

ア 教科書：Power On English Communication III（東京書籍）

イ 単元：“Library of the Future”

(2) 単元の目標「話すこと [やり取り]」

読書や図書館の利用について、自分の考えや気持ちなどを話し合う活動を2分以上続けることができる。

(3) 単元の指導計画

「話すこと [やり取り]」の指導は、ほぼ毎回の授業で10分程度の帯活動として実施する。なお、同じ内容でも複数回行うことで、生徒が自身の前時と本時の活動状況を比較しやすくしたり、欠席者が授業についてこられるようにしたりした。

時間	ねらい、学習活動
1～6	【ねらい】 教科書の単元に関するスキーマを活性化する。 やり取りのファースト・ターンを行う。 【学習活動】 ワークシート等を示された複数の質問について、英語で簡単なやり取りを行う。
7～10	【ねらい】 聞き手や話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合う。 ①聞き手に話す機会を与え、考えや気持ちを引き出す。 ②話し手の発言に対して反応を返す。 ③会話を広げたり深めたりする質問をする。 【学習活動】 パワーポイント等を示された質問について、1分以上のやり取りを行う。
11	【ねらい】 自身の活動状況を振り返り、改善点を発見する。 【学習活動】 パワーポイント等を示された質問について、2分間のやり取りを行う。
12	パフォーマンステスト

(4) パフォーマンステスト

ア 実施方法

対面形式

イ 実施方法

- (ア) 生徒は3人一組になる。
- (イ) 生徒は裏返しになった3枚のカードの中から任意の1枚のカードを引き、そのカードに書かれた質問を授業者が読み上げ、生徒は1人ずつ順に答える。
- (ウ) このやり取りを起点として、3人で会話を深めたり広げたりする。
- (エ) 2分経過したら終了する。

ウ 指導上の留意点

- (ア) 生徒に評価基準を事前に提示する。
- (イ) 聞き手や話し手に配慮した態度の具体例を明示する。

エ 評価基準

- (ア) 質問に対する自分の意見や考えを適切な内容で表現することができた。
 - ・簡潔な応答（短文、主語と動詞を含まない応答）・・・1点
 - ・複数の文による応答・・・2点
- (イ) 会話を発展させる質問をすることができた。・・・3点

上記の評価基準に基づいて生徒の活動状況を見届け、(ア)もしくは(イ)ができるごとに得点を加算していく。2分経過したら、生徒ごとに獲得した得点を算出する。その得点を踏まえて「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の評価をa、bまたはcの3段階で一体的に行い、その結果を原案とする。

(5) 実践報告

ア SMARTな目標

実践校の生徒の多くは言語活動の中で用いる語彙や表現が限定的であり、やり取りが継続しないことがしばしば見られた。したがって、単元末にパフォーマンステストを行うまでに到達を見込める要素として、日常的な話題についてのやり取りをすることが必要だと考えた。また、やり取りの継続を見届けるためには一定の時間が必要であり、1クラスの生徒数と授業時間を考慮した結果、3人1組による2分間のやり取りとした。一方で、生徒たちの「話すこと」への意欲は高く、本実践の前に実施したアンケート項目のうち、「高校を卒業するまでに現在よりも向上させたいと思う技能」として「話すこと」が最も多く選ばれた。これを生徒が粘り強く学習に取り組むきっかけの一つとして活用して、本単元の学習が彼らの成功体験につながるように段階的な指導計画を立てた。

イ 目標の達成につながる指導と支援

教科書の内容は図書館が担う社会的役割の拡張について取り扱うものであった。この話題から「読書」と「図書館」というキーワードを抽出して、これらに対する生徒の体験や価値観等についてペアでやり取りを行った。このとき、質問に答える生徒には、①まず YES/NO で答えること、②その後自分の気持ちや考えについて1文付け加えることという条件を課した。この活動の目標は、やり取りの方法を体験的に学習するだけでなく、本単元の他の領域の学習活動において用いられやすい語を活用することにもあった。

この活動の後、やり取りで扱った質問の中から生徒が任意の1つを選び、それについて自分の気持ちや考えをワークシートに書く指導を行った。辞書及び機械翻訳の使用も妨げないことで、生徒の知りたいという意欲が高まるような工夫をした。やり取りの際の賑やかな雰囲気とは対照的に、黙々と書く活動に取り組む静かな雰囲気が印象的であった。また、早く書き終えた生徒には自分が書いたことを踏まえて、会話を広げたり深めたりするための質問も考える時間とした。これによって、やり取りを継続させる技能を身に付けることにつながると考えた。この活動の成果物は記録に残す評価とはせずに、時機を見てワークシートを回収し、その到達度を踏まえてパフォーマンステストの質問を考えたり、今後の指導の参考にしたりした。

次に、前段階で扱った質問の1つを提示して、その質問を起点としてやり取りを1分以上継続する練習を行った。冒頭にパワーポイントで作成したやり取りの手順をスライドに投影して生徒に示し、前述した「聞き手や話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合う」ことへの意識を高める工夫を行った。前段階である程度練習したことを生かし、会話を広げる質問や深める質問を試みる生徒も多くいた。表情豊かに話す生徒の姿を見て、授業者としての充実感を得た一方で、やり取りが継続しないペアも少なくなく、会話を広げる質問や深める質問の例を提示することでやり取りを継続させる支援とした。また、質問の意味を相手が正しく理解できないためにやり取りが止まる場合があることが分かった。相手が返答に困っている場合には、想定される回答例を複数示すことで相手が質問の意味を察しやすくするように支援した。

パフォーマンステストの前には本番とほぼ同じ条件でリハーサルを行った。このリハーサルで目標の2分を超えることができたグループはそれほど多くなかったが、生徒たちは自分の取組を振り返り、パフォーマンステストに向けた改善点を見つけようとしている姿が見て取れた。

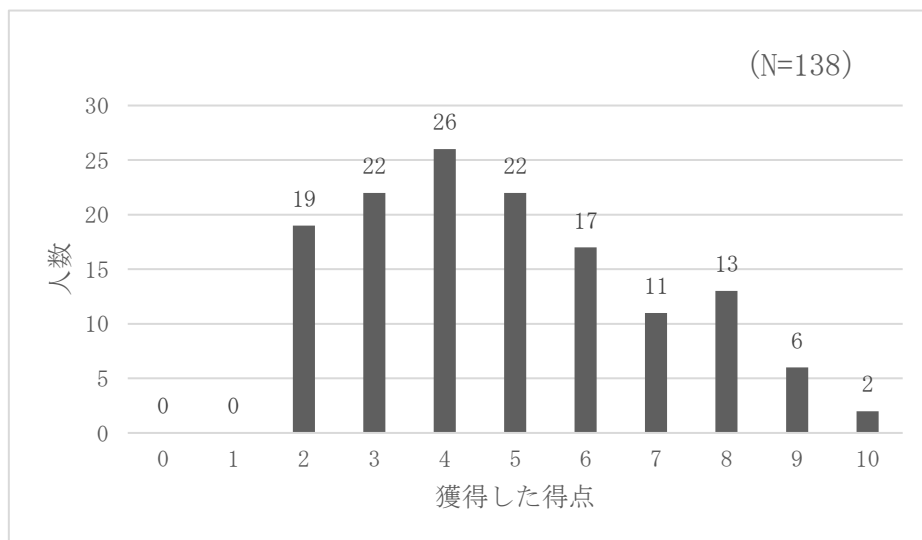
ウ 適切な評価

今回の実践では、①2分間のやり取りを行うグループメンバーは当日決定すること、②1回の授業時間内に全ての生徒にテストを行うこととした。テストは3人ごとに廊下で行い、教室は待機室とし

た。やり取りが進まないグループには授業者からジェスチャーでやり取りを促した。また、欠席者への配慮も含め、1回のテストで満足のできる結果が出せなかった生徒は後日再チャレンジしてもよいというルールとした。これらは「グループの構成員の英語運用能力」「グループの構成員同士の人間関係の濃淡」及び「引いたカードに書いてある質問の難易」という複数の偶然性によって結果が左右されてしまう恐れがある今回のテストの信頼性を高めるためには必要なことだと考えた。また、生徒のやり取りを録音して、そのデータを評価に活用した。

パフォーマンステスト後、各生徒の獲得した得点を算出した（資料1）。2分間のやり取りで4点以上を獲得していれば本単元の目標を概ね満たしているとして、4点以上を獲得した生徒の「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の評価をb以上とした一方で、3点以下だった生徒はcと評価した。ただし、「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、パフォーマンステスト中に見取ることができたやり取りを継続させるための発言や態度の有無（例えば、他者の発言に対してコメントをすることや質問を聞き取れなかったときに聞き返すことなど）や、これまでのやり取りの練習に取り組む様子を考慮して、cと評価した生徒の多くはbに修正した。加えて、2分間のやり取りで7点以上を獲得している生徒は、やり取りの中で特に積極的かつ継続的に自分の気持ちや考えを表現したり会話を広げる質問や深める質問をしたりしていることが授業者の記録から判断できた。したがって、7点以上獲得した生徒の「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の評価をaとした。

【資料1 パフォーマンステストの結果】



(6) 反省点及び改善点

まず反省すべき点は到達目標を表すbに満たない生徒が3割程度いたことである。c評価の生徒もファースト・ターンのやり取りはできたが、その後の会話の展開において、スムーズに適切な質問をしたり自分の気持ちや意見を伝えたりすることができなかった。語彙力をはじめとする表現力を高めるには時間を要するが、できるだけ多くの生徒がb以上の評価となるように、これからも粘り強く指導を続けたい。また、やり取りの中には会話を発展させる意図で発した質問がこれまでの会話の流れには沿わないケースがあった。やり取りを適切に継続させるためには、伝え合った情報を可視化することが有効であると考え。やり取りで聞いた内容を任意でメモできる環境を設定して、そのメモを見ながらやり取りできるようにするなどの工夫も検討したい。

3 実践例2 「コミュニケーションⅢ」における教科書をベースとしたプレゼンテーションの指導と評価の在り方について

(1) 教材

ア 教科書： *All Aboard! English Communication III* (東京書籍)

イ 単元：「プレゼンテーションをしよう」

(2) 単元の目標

ある地域の自然についての特徴や直面している問題及び解決策を提示しながら、分かりやすく説明ができる。

(3) 単元の指導計画

時間	ねらい (■)、学習活動 (丸数字)
1	■単元の目標を理解する。 ■単元内容の背景となる知識を可視化する。 ①授業者がマダガスカルに関するクイズを出し、基本的な知識を確認する。 ②世界中の美しい自然が残る場所をクラス全体でいくつか挙げ、その直面している問題を共有する。 ③本文の新出単語を確認する。 ④本文音声聞き、ワークの質問に答える。
2～5	■パート1から3の内容を確認する。 ①マダガスカルの自然や動物の特徴、直面している問題、取り組んでいる解決策についての文を読み、要点を理解する。 ②ワークの問題を解き、本文の詳細を確認する。 ③本文のキーワードを全体で共有し、板書する。 ④キーワードを用いて、本文の要約と感想を英語で話して伝える。 ⑤ペアを変えて、④の活動を複数回行う。 ⑥④の内容を書いてまとめる。
6、7	■スピーチの概要を作成する。 ①授業者のモデルスピーチを聞き、内容を確認する。 ②達成目標及び評価基準を確認する。 ③ワークシートに沿って、スピーチの概要を作成する。必要に応じて、環境問題について、タブレット端末を活用して情報収集をする。
8	■パフォーマンスの改善点を見つける。 ①3人一組で、発表者、撮影者、評価者を交代で担う。 ②順番に発表し、相互評価と自己評価をする（自己評価は撮影動画を見て行う）。 ③目標の達成状況を振り返り、改善点を見つける。 ④発音練習に役立つウェブツールを紹介して発表練習を促す。
9	パフォーマンステスト 美しい自然が楽しめる場所と直面している問題や解決策について話して伝える。
後日	定期考査

(4) パフォーマンステスト

ア 領域

話すこと〔発表〕

イ 内容

ある地域の自然の特徴、直面している問題、解決策について話して伝える。

ウ 評価基準

「(5) 実践報告 ウ 適切な評価」を参照。

(5) 実践報告

ア SMARTな目標

この単元では、マダガスカルの自然について本文で学び、他の地域の自然について英語によるプレゼンテーションにより紹介するというパフォーマンステストを設定した。マダガスカルの人々の生活を通して、地球環境や生態系について考えを深め、地域の自然や直面する問題及び解決策について、英語で分かりやすく説明することができることを目標とした。しかし、論理的な文を書くことに慣れていない生徒がいるため、「SMARTな目標」の視点からプレゼンテーションに幾つかの条件や評価基準を示すことで単元目標をより具体化する工夫をし、教科書の内容を活用できることを目指した。

(ア) 教科書で学んだ表現を活用し、「地域の自然の紹介とそれが直面する問題及び解決策」を提示する。

(イ) 教科書の論理展開を参考に、introduction、body、conclusion の構成を取り入れる。

(ウ) 教科書で既習のディスコースマーカーを使って、「原因、問題、解決」を説明する。

(エ) 聞き手に配慮して、アイコンタクト、声の大きさ、発音、抑揚などを意識して発表する。

イ 目標の達成につながる指導と支援

目標を達成するために、パフォーマンステストの準備で複数のスモールステップを設定した。

(ア) 授業者によるモデルプレゼンテーション

授業者が教科書の内容を要約したモデルプレゼンテーションを行うことによって、生徒がプレゼンテーションを準備する際の支援とした。モデルプレゼンテーションを提示した後、その原稿を配付した。授業者が要約文の構成を紹介しながら、ディスコースマーカーの使い方、論理の展開を確認した(資料2)。

【資料2 モデルプレゼンテーションの原稿】

Today, I would like to talk about the nature in Madagascar. Recently, I watched TV program about Madagascar. It was very interesting to learn about Madagascar.

First, around 75% of Madagascar's animals are native species. You cannot find African animals such as lions and elephants there. **Also**, there are a lot of unique plants in Madagascar. For example, baobab tree is the most famous of them. People eat baobab fruits which are edible and rich in vitamins and minerals.

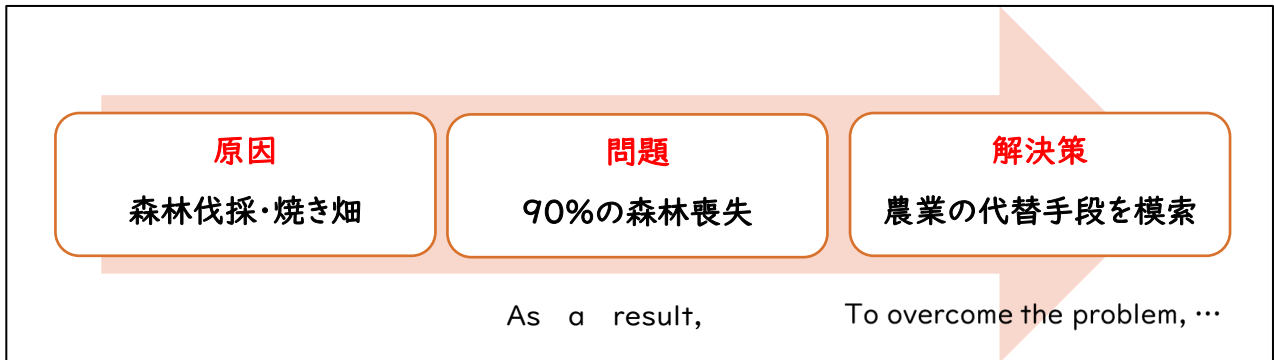
However, Madagascar's biodiversity and ecosystem are being threatened by human activities such as deforestation and agricultural fires. People cleared the forests to make rice field. **As a result**, Madagascar has lost 90% of its forest.

To overcome the problem, local people have joined the internationally supported project that teaches alternative agricultural methods.

(イ) ワークシートの活用

ワークシートを用いて論理を整理するところからスモールステップで取り組めるように工夫した(資料3)。特に、今回のテーマの場合は原因と問題を混同しやすいのではないかと考え、モデルプレゼンテーションの例を当てはめながら、論理を可視化し、そこから原稿を書くよう指導した。同時に、展開を効果的につなげていくディスコースマーカーもこの時に再提示した。原稿作成の前段階から、目標に向けてのステップを明確にすることで、プレゼンテーションに向けて見通しをもてるようにしながら、中長期的に継続して生徒の活動状況を見届けた。

【資料3 ワークシートの部分例】



(ウ) リハーサルの実施

リハーサルでは聞き手への配慮ができているかを客観視できるようにタブレット端末の録画機能を使用した。3人一組のグループをつくり、発表者、評価者、録画担当者を交代で行った。

リハーサルでは録画した動画を確認しながら自己評価及び他者評価を行うことで現状の改善点を把握するよう指導した。この自己評価及び他者評価では声の大きさやアイコンタクトなどのデリバリーを評価することに重点を置いた。また、発音の確認をするために、音読ウェブツール「音読さん」を紹介することで、自信をもって発音できるように本番までに練習することを促した。

ウ 適切な評価

プレゼンテーションによるパフォーマンステストでは「思考・判断・表現」の観点で、ディスコースマーカーを用いた論理展開と、「原因・問題・解決」が明確に提示されているかを評価した。「主体的に学習に取り組む態度」の観点で、これまでスモールステップで学んできた論理の展開や発表態度などをパフォーマンステストに生かそうとしているかを見取るようにした(資料4)。

【資料4 評価基準】

	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
a	環境問題とその解決策について詳しく論理的に説明している。	相手に配慮しながら、適切に環境問題とその解決策について詳しく論理的に説明しようとしている。
b	環境問題とその解決策について具体性や論理性を欠いているが、説明している。	相手への配慮や適切性に欠けるが、環境問題とその解決策について説明しようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

(6) 考察

多くの生徒が「思考・判断・表現」で b 以上の評価を得ることができた。b 以上の評価だった生徒は、ワークシートやリハーサルの取組状況も良好だったので、「主体的に学習に取り組む態度」も一体的に評価を行うことができた。評価の割合は以下の通りである（資料 5）。

【資料 5 評価分布】

「思考・判断・表現」	a	b	b	c	c
「主体的に学習に取り組む態度」	a	a	b	b	c
人数	12	2	15	3	5

原因と問題の内容が混同している発表や、適切なディスコースマーカーを使用していなかった発表が幾つかあり、b の評価とした生徒が多くいた。ワークシートの取組やスクリプトは良好であったが、発表時にうまく話せなかった生徒には、「思考・判断・表現」で b、「主体的に学習に取り組む態度」では a の評価とした。授業での準備状況は良好であったが、人前での発表がうまくいかず、スクリプトを大幅に省いてしまったり、長い時間沈黙が続いたりした生徒に対しては、リハーサルで録画した動画も考慮しながら、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」とともに b の評価とした。

単元を通した指導の中に、「自らの学びを調整しようとする側面」と「粘り強い取組を行おうとする側面」を見取る場面を設定することで、単元の終わりにあるパフォーマンステストで、それらが発揮されたかを「思考・判断・表現」と一体的に見取ることができることが分かった。同時に、単元の指導の中で、単元目標の達成につながる指導をきめ細かく行うことが大切である。安易に c の評価とならないように、日頃の授業において指導に生かす評価を充実させることで、生徒一人一人に適した学びとなると感じた。

4 実践例 3 探究学習とプレゼンテーションの指導と評価について

(1) はじめに

私たちの多くの活動において、自己決定すること、即ち自律的であることが高いパフォーマンスをもたらす (Deci & Flaste 1995)。まだまだ一律的な教育が多い中、自己決定や内発的動機付けの要素を取り入れた探究学習は、生徒のモチベーションを高め、主体性を引き出すことができる。

今回、教科書の学習をどう探究活動につなげるか、そして、一連の活動を通じて生徒の学ぶ意欲をいかに引き出し、「主体的に学習に取り組む態度」をどのように「思考・判断・表現」と一体的に評価するか、実践を通じて検証する。

(2) 教材

ア 教科書：*BLUE MARBLE English Communication III*（数研出版）

イ 単元：“Wrapping: Reinventing a Cultural Tradition”

ウ 補助教材：準拠ナビゲーションノート、別冊ブックレット（授業者作成）

(3) 単元の目標「話すこと〔発表〕」

教科書の英文の概要や要点を把握し、「伝統文化と環境問題」について理解できる。その後、聞いたことや読んだりしたことを基に、「自分の関心領域と環境問題」という視点で、情報や考えを理由とともに話して伝えることができる。自らの興味に従って学習テーマを決定し、問題の解決策を考察することで、卒業後の主体的な学びにつなげたい。

(4) 単元の指導計画

※網掛けは記録に残す評価の場面。

(聞…聞くこと、読…読むこと、や…話すこと [やり取り]、発…話すこと [発表]、書…書くこと)

時間	■ :ねらい ○数字:言語活動	内容のまとめ					【 】:生徒の活動状況を見届ける観点 ○:方法
		聞	読	や	発	書	
1	■単元の目標を理解する。 ■テーマへの興味・関心を高める。 ①身近にある*日本的な物の実物を生徒の半分に示し、それが何かを当てる英語クイズをペアで出し合う。 (*お弁当箱、割りばし、ポチ袋、風呂敷) ②本文に出てくる「風呂敷」の使用例や長所、関連する環境問題について授業者が英語で述べ、教科書とリンクさせる。 ③初見で教科書の全文を通し読みをして、概要を捉える活動を行う。 ④全文をリスニングし、各パラグラフのトピックとなるキーワードを囲み、論理展開を捉える。	○		○			【知】 適切な語句・表現を使用しているか。 【思】 適切な表現で相手に話して伝えているか。 【態】 適切な表現で相手に話して伝えようとしているか。 ○活動の観察
2	■全体を通し読みして、概要を捉える。 ①1レッスンを通し読みして、概要や要点を捉え、各パラグラフに最適なタイトルを考える。 ②ペアで情報をシェアする。		○			○	【知】 語句や表現を理解しているか。 【思】 概要や要点を適切に捉えているか。 【態】 概要や要点を適切に捉えようとしているか。 ○ワークシート ○活動の観察
3	■全体を通し読みして、詳細をとらえる。 ①1レッスンを通し読みして、概要や要点だけでなく詳細を捉え、各パラグラフに関する問いに答える。 ②ペアで情報をシェアする。		○			○	【知】 語句や表現を理解しているか。 【思】 内容を適切に捉えているか。 【態】 内容を適切に捉えようとしているか。 ○ワークシート ○活動の観察
4	■文法・構文の確認と習得 ①表現や文法的なポイントを確認する。 ②丁寧に和訳することにより、正しく英文構造を捉え精読する力を養う。		○			○	【知】 英文構造を適切に捉えているか。 ○ワークシート ○活動の観察
5	■語彙・表現の確認と習得 ①英英辞典的な説明から重要語句の意味を確認する。 ②同義語と反意語に触れ、語彙力の広がりを目指す。		○			○	【知】 語句や表現を理解しているか。 【思】 内容を適切に捉えているか。 【態】 内容を適切に捉えようとしているか。 ○ワークシート ○活動の観察
6	■リスニングとスピーキング ①リンキングやイントネーションに留意しながらディクテーションを行う。 ②関連テーマについて、ペアで話して伝え合う。ペアを替えて何度も行うことで、内容や発音を改善する。	○				○	【知】 全体を理解しているか。 【思】 全体を適切に捉えているか。 【態】 全体を適切に捉えようとしているか。 ○ワークシート ○活動の観察

7	■社会問題について主体的に学び、解決策を考える。 ①進学先で学びたい分野と環境問題を関連させて、独自の探究テーマを決定する。 ②その問題を解決するためのアイデアについて、ブレインストーミングする。(協働) ③付箋に書き出す。(ここから KJ 法) ④付箋の情報を同類でまとめ、グルーピングする。 ⑤関係性を図解化し、論理的につなげる。 ⑥結果をまとめる。	○	○	○	【知】 適切な語句・表現を使用しているか。 【思】 伝えたい内容を、論理的かつ簡潔に、書いたり話したりして伝えているか。 【態】 伝えたい内容を、論理的かつ簡潔に、書いたり話したりして伝えようとしているか。 ○ブックレット ○活動の観察
8 ～ 10	■ループリックを確認し、スクリプトを練る。 ■パワーポイントを作成する。 ■音読練習をする。 ①スクリプトを書く。 ②“Grammarly”で修正する。 ③音読練習をする。タブレット端末で「音読さん」にスクリプトを入力し、ネイティブの音声とともに繰り返し練習する。 ④キーワード(キーフレーズ)のスライドを作成する。 ⑤スライドを用いてリハーサルを重ねる。(「ロイロノート」に録画しながら各自で改善する。) ⑥グループで中間発表を行い、中間評価とフィードバックを行う。 ⑦さらによくなるよう、練習を重ねる。	○	○	○	【知】 適切な語句・表現を使用しているか。 【思】 概要や要点を適切に捉えているか。 【態】 概要や要点を適切に捉えようとしているか。また、自分の考えを積極的に伝えようとしているか。 ○ブックレット ○活動の観察
11 ・ 12	■パフォーマンステスト ①聞き手は評価シートに評価とコメントを書き、発表者にフィードバックする。 ②時間があれば、質疑応答をしたり、取組の感想をグループで話したりしてもよい。 (クラス代表を選び、学年でプレゼン大会やブース型のセッションをしてもよい。)	○			※評価基準はループリックに基づきあらかじめ生徒に提示する。下記「(5) パフォーマンステスト」を参照。 ○ループリック、評価シート
	■活動全体の振り返り				○振り返りシート(ブックレット提出)
後日	定期考査		知 思		知 思

(5) パフォーマンステスト

ア 領域

話すこと[発表]

イ 内容

自分の興味ある分野における環境問題について、現状と解決策を理由とともに話して伝える。

ウ 「思考・判断・表現」についての条件

条件1：現状の問題点を明確に提示している。

条件2：問題点に対する対策を具体的に述べている。

エ 評価基準

	「主体的に学習に取り組む態度」	「思考・判断・表現」	「知識・技能」
a	二つの条件を満たした上で、関連した情報や自分の考えを、理由や具体例とともに詳しく話して伝えようとしている。	二つの条件を満たした上で、関連した情報や自分の考えを、理由や具体例とともに詳しく話して伝えている。	
b	二つの条件を満たしながら、話して伝えようとしている。	二つの条件を満たしながら、話して伝えている。	
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	

※今回は「主体的に学習に取り組む態度」を重視したいため、評価基準の並びを上記のようにした。

(6) 実践報告

ア SMARTな目標

今回の探究活動の注目点は、以下の2点である。

- 1 「将来取り組みたい分野と環境問題」について自らテーマを設定し、主体的に学びを深める。
- 2 協働しながらプレゼンテーションスキルを磨き、現状、課題、解決策についてよりよく話して伝えようとする。

上記1については、教科書で「日本独自のラッピング文化と環境問題」に関する英文を読解したことを発展させ、生徒自身が「関心のある分野」を「環境問題」という視点から捉え、学びのテーマを決定した。自己決定は、人の内発的動機付けにつながりモチベーションを上げると言われている。生徒アンケートからも、「一律でテーマを与えられるより学ぶ意欲が増した」という結果が得られた。また、大学での学びや将来のキャリアを意識できることと、社会問題の課題解決を探るという点で、授業において高大接続が可能である。

上記2については、プレゼンテーションの準備過程に協働的な学びを取り入れることで、「伝えたい」という意欲を大きく刺激することができる。例えば、クラスメイトのリハーサルを聴く、フィードバックを話して伝える、コメントを英語で書くなど、生徒が実際の場面で英語を使う機会が増え、授業もいきいきとしたものになる。

イ 目標の達成に繋がる指導と支援

生徒をゴールまで導くためには、日頃の授業の様子や学校の特色に応じて、生徒が無理なく学べる環境を整える必要がある。そのために必要なこととして以下の2点を心がけた。

まず、ICTを活用して生徒が必要に応じてウェブツールを使うことで効率的な学びにつなげる工夫をした。例えば“Grammarly”を使用して英文のミスを修正したり、「音読さん」を使用して基本的な発話練習を繰り返し行ったりすることができた。AIによるネイティブ音声で発音を習得後、ペアやグループで協働してAIの不得意な表現力を磨くこともできた。そうすることで、ただ英語を書いたり話したりするだけでなく、その先にある「表現」の段階に重点を置くことが可能となった。

2点目に、「限られた時間で最大限の力を発揮する練習をする」という工夫がある。例えば、タブレット端末を活用して社会背景をリサーチする時間はじっくり時間を取りたいところであるが、授業時間には限りがあるので目標の時間を示すことが必要である。また、プレゼンテーションの原稿を作成するときは、タイマーで時間を計りながら、「論理・表現」の授業で学んだロジック・ライティングを活用した。科目をリンクさせることで、別々だった学びが生徒たちの中で体験的につながる。

ウ 適切な評価

何を目標にどう評価するかは、3年間を見通した学習計画と各校の状況によって決める必要がある。それを基に、項目や点数の刻み方を実情に合わせて決めていく。そして、事前にスタッフ全員で a、b、c の具体的な評価基準を話し合い、共通認識をもって臨むことが大切である。

今回は内容と論理性に重点を置いて評価した（資料6）。入学時よりプレゼンテーションに必要なデリバリー的要素は繰り返し取り組んできたので、「論理・表現」で学んだロジック・ライティングを「英語コミュニケーション」の授業にも生かして論理的なプレゼンテーションを完成させることで英語学習の集大成にしたいと考えたからである。

【資料6 パフォーマンステストのルーブリック「思考・判断・表現」】

		a		b		c		
1 現状	具体性	現状について具体的に述べている	5	不十分な箇所はあるが、理解に支障はない	3	bを満たしていない	1	計 /20
2 課題		課題について理由とともに具体的に述べている	5		3		1	
3 解決策		解決策について具体的に述べている	5		3		1	
1 ~ 3	論理性	適切なつなぎ言葉を用いるなどしており十分論理的である	5		3		1	

(7) 考察

ア 「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の一体的な評価

以下のとおり、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の一体的な評価は可能であるとされている。

基本的には、言語活動を行っている場面で「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の評価を一体的に行うことができ、結果として、両観点の評価は一致することが多い。ただし、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度が、パフォーマンスや言語活動の質に十分反映されていない場合も考えられ、その場合には、「思考・判断・表現」の評価と「主体的に学習に取り組む態度」の評価は一致しないこともある。

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校 外国語）』 p.85

たしかに、「思考・判断・表現」において高く評価された生徒は「主体的に学習に取り組む態度」の観点でも優れていた」と捉えることは自然であろう。この意味で、「思考・判断・表現」>「主体的に学習に取り組む態度」は起こりえないと考えられる。

では、その逆はどうだろうか。

イ 「思考・判断・表現」<「主体的に学習に取り組む態度」のケーススタディ

ある生徒はプレゼンテーション当日に緊張したのか、十分な発表ができないまま終わってしまい、「思考・判断・表現」の総合評価はcであった。しかし、この生徒は一連の活動に非常に意欲的に取り組んでいた上、作成したスクリプトは具体性、論理性ともに問題のないものであった。したがって、よりよいプレゼンにしようと前向きに取り組む姿を見取ることができたと判断し、以下の資料に鑑み

て、この生徒の「主体的に学習に取り組む態度」の評価をbとした。

「主体的に学習に取り組む態度」は、基本的にはパフォーマンステスト等において「思考・判断・表現」と一体的に評価する。しかし、パフォーマンステスト等において「主体的に学習に取り組む態度」が「c」（努力を要する）であった場合でも、生徒の振り返りや授業中の学習状況などから、生徒が自らの学習を自覚的に捉え、学習を調整しようとしており、実際に言語活動のなかで表出していると判断できる場合には、それらの見取りを評価資料とすることも考えられる。

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校 外国語）』 p.88

(8) まとめ

成果物のみで生徒を評価するのは適切ではない。授業中の言語活動において、生徒が学習方法や進め方など試行錯誤しながら学びを調整しようとする姿や、目標に到達するために粘り強く取り組む様子、そして、そうした学習過程を通じた生徒の変容を、授業者がしっかり「見取る」ことが重要である。

5 おわりに

3校の実践例を通じて、「主体的に学習に取り組む態度」を「思考・判断・表現」と一体的に評価する方法について検証した。重要な留意点をまとめると、以下の3点である。

- (1) SMARTな目標
- (2) 目標の達成につながる指導と支援
- (3) 適切な評価

1点目のSMARTな目標では、特に初めのS（Specific）が大切である。生徒に身に付けてもらいたいことを具体化させることで生徒は目標を明確に理解でき、ゴールに向かって歩みやすくなる。2点目は、個々の興味・関心に沿いながら、生徒の自己決定の尊重、協働的な言語活動、ICTの活用、中間評価の実施など、計算され工夫された指導計画が重要となる。適切な計画と支援が生徒の意欲を高め、活動の過程を実りの多いものにするからである。3点目は、スタッフ全員で評価基準の細部まで共有することで得られると考える。

最後に、「主体的に学習に取り組む態度」を「思考・判断・表現」と一体的に評価する際、最も注意すべき点は、右表のパターン2である（資料7）。生徒が自らの学習状況を把握し、よりよく学ぼうと粘り強く取り組んでいる様子が見取れるのであれば、「主体的に学習に取り組む態度」の評価が「思考・判断・表現」の評価を上回ることも可能である。

【資料7 評価のパターン】

	パターン 1	パターン 2
思考・判断・表現	B	B
主体的に 学習に取り組む態度	B	A
あり得るか？	○	○

学習プロセスを通じて変わりゆく生徒たちの姿を、私たち授業者がしっかり見取り、それを評価に適切に反映させることが、生徒の学びに向かう力に大きく寄与する。

参考文献

- ・『高等学校学習指導要領解説』、文部科学省、2018年
- ・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校 外国語）』、国立教育政策研究所、2021年

- ・上山晋平『英語トリオ・ディスカッション指導ガイドブック』、明治図書、2022 年
- ・澤井陽介『できる評価・続けられる評価』、東洋出版社、2022 年
- ・瀧沢広人『中学英語 実例でわかる！「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価』、学陽書房、2023 年
- ・中嶋洋一「「階層式マッピング」で鍛える「思考・判断・表現」」『英語教育』73 巻 9 号、大修館書店、2024 年
- ・Deci, E. D. & Flaste, R. 1995. *Why we do what we do*. New York: G.P. Putnam's Sons
(監訳 桜井茂男『人を伸ばす力ー内発と自律のすすめー』、新曜社、1999 年)
- ・二宮理佳「自己決定と内発的動機づけー自由な発想を引き出す自律性支援ー」、
<https://chuo-u.repo.nii.ac.jp/records/17834>
- ・田村学『探究的な学習の質を高める「協働的な学び」』、文部科学省、2020 年
https://www.mext.go.jp/content/20201023-mxt_kyoiku01-000010203_3.pdf